インターネットと連動した 【滋賀生活情報紙】

「滋賀ガイド」と提携しています

www.gaido.ip

VOI.560・4月16日号 毎週木曜発行 4面に プレゼント情報!

●Oh!Me編集室/株式会社ヤマプラ:近江八幡市桜宮町294 TEL0748-34-8872 FAX0748-34-8927

●広告/滋賀毎日広告社:大津市打出浜3-16 TEL077-522-2603

●発行/毎日新聞大阪本社開発宣伝部:大阪市北区梅田3-4-5

発行部数: 100,000部



衣装の貸し出しから、わらじの割



担い手不足に悩む

保存会に入会した。

ガラガラ大抽選会

寺嶋さんは大手製造業のサラリーマン。

地方への出張が多く、忙しい日々を送っ

ていたが、25年前、自治会の役員として

地域の広報紙の取材のためケンケト祭

りの練習場所を訪れたところ、踊りの指

導の手伝いを頼まれたのをきっかけに

祭りは、「鉦打ち」と「振り子」がチームに

毎年5月3日に竜王町山之上地区で行 われる国選択無形民俗文化財「山之上 杉之木神社のケンケト祭り」。数え年11 歳から21歳の若者がなぎなた踊りを奉 納する、450年の歴史を誇る祭りだ。少 子化などにより祭りの担い手が減る中 で伝統を守っているのは寺嶋裕文さん が代表を務める「山之上薙刀祭保存会」 だ。踊りの指導、衣装の貸し出し、わら じの手配まで活動は多岐にわたる。そ の苦労や、祭りに寄せる思いを聞いた。

素敵な





たなぎなたの振り子は50人ほどに減少。 少子化と同時に、仕事や学業の都合で祭 りに出られない若者が増え、先輩から後輩 へ踊りがうまく伝承されなくなってきた。

「このままでは450年の歴史が消えてしまう!」 寺嶋さんは危機感に迫られた。

個人の負担を軽減

寺嶋さんは保存会の先輩に相談して、

なって歩幅や回転などを合わせて踊

年中無休 =5/14(木)はメンテナンスの為、休息。

4地区の子どもの名前と年齢の一覧表 を作り、早めに声を掛けてメンバーを募 るようにした。さらに若者が少ない年

には、参加年齢の幅を広 げる工夫もした。

祭りには伝統芸能として の一面もある。単に楽し むだけにはしたくないと 考え、練習に力を入れた。 祭りの前の土日には、とこ とん練習に付き合った。

約85元もあるサギなどの 大道具や小道具は、若者 だけでなく父兄も協力して 作る必要がある。作り方 の指導にも力を入れた。

衣装も各家への高額出費 は負担が大きく、10年ほ ど前から保存会で衣装を作

り、貸し出しをするように改善した。 わらじも昔は各家庭で作っていたが、今 は作れる人がいないので保存会で何と かしなければならない。

> 他の地区では、わらじを履かず に靴で済ませることもあるが、 自分たちがやってきた「姿」「形」 を続けることに意味があるとい う考えから、わらじは欠かすこ とのできないアイテムだ。

> 県内でわらじを作っている人

福井県の県境に近い長浜市余呉町まで 足を運び調達したという。

義務ではなく楽しむ

2年前、県内各地の民俗文化財の保護 団体などで作る滋賀県民俗文化保護 ネットワークに加わった。祭りの知名度 を上げ、地域活性化につなげたいと考え

> たからだ。昨年11月に は甲賀市水口で開かれ た「近畿・東海・北陸ブ ロック民俗芸能大会」 にケンケト祭りも参加。 最近は多方面の人々と の交流が実を結び、博 物館や大学からも見学 に来てもらえるように なってきた。

伝統芸能の保存と伝承 は地域や保存会の理解 と協力があってこそと いう寺嶋さん。

「若者やその家族と一 体感が味わえることがう

れしいです。この活動を通じて、私自身 も楽しませてもらっています」(取材・鋒山)



■場所:杉之木神社

(蒲生郡竜王町山之上3560) ■時間:10:00~17:30ごろ

※杉之木神社での奉納は14:40ごろ

竜王町観光協会 ● 0748-58-3715









難しゃぶランチWコース 1000円勢

GWロ5/2~5/6は使用不可



金・プラチナ・銀・時計・バッグ・財布・ダイヤ・ジュエリー・金貨・銀貨・切手・商品券



☎ 077-547-2606 大津市一里山1丁目3-6-102(ヒカリ屋隣)

駐車場 あります



営業時間10:00~19:00 定休日 日曜日 古物商(チケット商)許可証:第60101H190043号 滋賀県公安委員会 質屋商許可証:第601012000001号 滋賀県公安委員会